

対象サービス	項番	内容	回答
GakuNin RDM	1	JAIRO Cloudとの連携について。	即時OAへの対応として、JAIRO CloudとGakuNin RDMのシステム連携を強化し、研究者による日常的な研究データの管理から成果（論文著者最終稿と根拠データ）公開が可能な機能の開発を進めています。
GakuNin RDM	2	本学の機関リポジトリはJAIRO cloudではありませんが、そのような機関もGakuNin RDMと連携して機能を使用することはできるのでしょうか。	提供初期は非JAIRO CloudとGakuNin RDMのシステム連携はできません。両システム間の連携においては、標準的なスキーマ（JPCOARスキーマ）、プロトコル（SWORD v3）、パッケージング方式（RO-Crate）などを用いて開発しており、両ソフトウェアはOSSとしてソースコードおよび開発ドキュメントを公開しています。今後、各機関での開発の際に参考となる仕様の公開などを検討してまいります。
GakuNin RDM	3	JAIRO Cloudとの連携にあたり、 1.インデックスをどう指定するのか。 2.研究データと論文データを別ページで登録し、双方を関連リンクで紐づける形で登録したい場合、教員からのセルフアーカイブデータをどう受け取り登録できるのか？セットでデータが流れてきて登録されるように聞こえましたが、実際のイメージがつかめません。 3.現在のWEKO3では、サーバエラー等が多数発生しているが、セルフアーカイブ時にそのようなことが発生した場合はどう対処できるのか？現在はタスクフォースが個別対応しているが、今後もそのような方法で対応できるのか？（エラーが出なくなることが一番ですが、今後も何らかのエラーは続くだろう、と感じます）	前提として図書館におけるJAIRO Cloudの機関管理者は、JAIRO Cloudの管理者画面のApplicationsでGakuNin RDM用OAuthの初期登録作業を行います。また、情報基盤センターにおけるGakuNin RDMの機関管理者は、機関管理画面においてJAIRO Cloud側で払い出された接続情報を初期登録しておきます。加えて、個別研究者はGakuNin RDMとJAIRO Cloudに研究者用のアカウントを持っている必要があります。 研究者はJAIRO Cloudの研究者用アカウントで利用可能なインデックスを、GakuNin RDMのプロジェクトのWEKOアドオン内で設定することで、GRDMのファイルツリーにJAIRO Cloud上のアクセス権のあるインデックスツリーが見えるようになります。 論文著者最終稿と根拠データは原則、別のアイテムとして登録されます。それぞれが先に登録されている場合に、追加データとして個別に登録できるようにするなど選択的な機能を開発いたします。 サーバエラー等ではご迷惑をおかけしております、運用に関しまして先行利用を通じて、テスト実施を強化するなど機関側のご負担がなるべくかからない様に改善してまいります。
GakuNin RDM	4	GakuninRDMからJAIRO Cloudへ論文メタデータと本体ファイル、研究データのメタデータとそのファイルが連携されると理解したが、JAIRO Cloud側の設定も詳細にアナウンスされるのでしょうか。	現時点では、GakuNin RDMとJAIRO Cloudの連携に付きまして、システム連携のリリースと合わせて、JAIRO Cloud側での設定方法などを記載したマニュアルの提供予定です。
GakuNin RDM	5	今回の説明では、GakuNinRDMに研究データと著者最終稿を登録してJAIRO Cloudへ転送するとの説明でしたが、研究者の多くはGakuNinRDM以外で研究データを管理を管理することを想定し、JAIRO Cloudに既に登録済みの論文に、GakuNinRDMで管理されていた研究データを、後で、関連付ける運用をイメージしていました。そのような機能は、検討されているのでしょうか？	JAIRO Cloudに先に論文が登録されている場合と、先に研究データが登録されている場合のいずれのケースでも、GakuNin RDM中で相互に紐づけて登録できる機能の開発を目指しています。
GakuNin RDM	6	2025年に対応予定のJAIRO Cloudへの論文及び研究データのコピー方法手順案。	GakuNin RDM中で対象のデータを選択しメタデータを入力した後、JAIRO Cloudに出力する詳細登録の手順になります。原則、論文著者最終稿と根拠データは別のアイテムタイプで別のアイテムとして登録されます。データ実体はGakuNin RDMからJAIRO Cloudへの移動ではなくコピーになります。
GakuNin RDM	7	リポジトリ経由で公開する論文や研究データは増えた？ 公開を選択した場合、機関リポジトリ担当者が付与しなければいけないメタデータの項目はある？ GakuNinRDMの入力画面に機関リポジトリで公開したデータのURLを入力する欄があると思いますが、公開するとメタデータに自動で付与・反映される？ 機関リポジトリ以外で公開したデータ等の管理は、研究者任せ？ 博士論文を公開する際も、GakuNinRDMにエビデンスを保管し、リポジトリ経由で公開するということでしょうか？	即時OAの必達目標では査読付論文の著者最終稿とその根拠データを機関リポジトリに登録する必要があります。 GakuNin RDMを通じたJAIRO Cloudへの論文の公開の際に図書館員が付与するメタデータは論文の書誌情報になり、研究データは研究者が登録したメタデータが付与されてJAIRO Cloudに登録されます。機関リポジトリ以外で公開した研究データ等の管理は、機関の研究データポリシーに従い、研究データの管理責任者（機関の長、部局長、研究倫理部門、研究主宰）が管理責任を担うと考えます。大学院生等に対する研究データ管理等の情報リテラシー教育の観点で、博士論文は義務ではなくともそれに準ずる取扱いが必要になっていくと考えます。
GakuNin RDM	8	研究成果の根拠となるデータの管理やチェックは「図書館員」だけでは困難だという意見がチャットで挙がっていましたが、その通りだと思います。情報管理部門や各研究者自身の協力が得られるよう、様々な方向から情報発信をしてもらえると有難いです。	情報発信においては、ご指摘の点に留意し、公開資料、Webページやイベント等で研究データ管理および即時OAについて広く情報発信して参ります。
GakuNin RDM	9	即時OAに向けた、GakuNinRDMとの連携と図書館に期待される役割等	研究者がGakuNin RDMを通じてJAIRO Cloudへ登録した査読付論文の著者最終稿の書誌情報と、その論文の根拠データのメタデータについて誤りがないか確認いただくという点になるかと思えます。また、研究者と連動しての補完・修正作業が期待されます。
GakuNin RDM	10	研究データ管理は、図書館にとっては、高いハードルです。 図書館員が精度を高くメタデータを付与していくのは、現実的に困難です。 研究者自身が登録する流れでご検討いただけますと幸いです。	原則、GakuNin RDM側で研究者が、責任を持って入力するか、あるいはシステムから可能な限り自動取得したメタデータを作成し、JAIRO Cloudに登録する手順を検討しています。図書館員と研究者のいずれにとっても研究データ管理の負担を軽減できるシステム運用の実現を目指します。
GakuNin RDM	11	研究者が自分で登録しリポジトリへ取り込むことができるのはとても良いかと思うのですが、即時OA義務化対象論文外の論文も登録されることも視野に入れているのでしょうか	はい。即時OA義務化対象以外の論文も研究者自身で登録できるようにしていく計画です。

GakuNin RDM	12	(1) 研究者がセルフアーカイブする「研究データ」について、付与するメタデータはGRDMで用意されているメタデータスキーマ（「公的資金による研究データの管理・利活用・・・」で示されているメタデータの共通項目）を、ほぼ、そのままのかたちで機関リポジトリ～CiNiiに流すことを想定されているのでしょうか？機関リポジトリ側にそのまま登録しても大丈夫でしょうか？それとも何らかの形で機関リポジトリ側（図書館側）で情報を付加する必要があるのでしょうか？その場合は最低限どのような情報を付加する必要があるのでしょうか？	はい。GakuNin RDM上で研究者がセルフアーカイブする際は、公的資金による研究データのメタデータ共通項目が、JAIRO Cloudの一部（個人メールアドレスや備考等）非公開情報を除きそのまま登録されます。原則、JAIRO Cloudのプライベートモードのインデックスへの登録を想定していますので、図書館員は機関リポジトリ側で、公開前の確認および補完作業を行って頂く必要があります。政府がメタデータ共通項目で指定している必須項目については、研究者が入力するGakuNin RDMの入力時点でもバリデーションをおこなっています。
GakuNin RDM	13	研究者がGakuNin RDMからJAIRO Cloudへ送ったメタデータを、図書館員がチェックする機能は、あって然るべきと思う。海外の事例を聞いたところ、研究者が書いてくれる情報量はとても少ないので、図書館から質問してメタデータを書き加えてもらうことで、メタデータの質を利用に耐える程度にまで高めているという。	研究者がGakuNin RDMで研究者が登録したメタデータを、JAIRO Cloudのプライベートモードへ登録した後に、図書館員がJAIRO Cloud中で確認・修正を行うフローを想定します。
GakuNin RDM	14	共通メタデータ項目をJC以外のリポジトリに送信する方法、およびその開発状況	提供初期は非JAIRO CloudとGakuNin RDMのシステム連携はできません。非JAIRO Cloudの機関リポジトリに向けては、利用機関側で開発が可能な様に、JAIRO Cloud連携の仕様とソースコード等の情報を公開して参ります。両システム間の連携においては、標準的なスキーマ（JPCOARスキーマ）、プロトコル（SWORD v3）、パッケージング方式（RO-Crate）などを用いて開発しており、両ソフトウェアはOSSとしてソースコードおよび開発ドキュメントを公開しています。今後、各機関での開発の際に参考となる仕様の公開などを検討してまいります。
GakuNin RDM	15	(2) 研究者が研究上で必要なメタデータを、「公的資金による研究データの管理・利活用・・・」で示されているメタデータの共通項目」ではカバーしきれていないケースも多いように思いますが、Gakunin RDM上のメタデータのスキーマは研究者側で拡張可能でしょうか？また、JPCOARスキーマ対応のメタデータを、研究者自身がGRDM上で登録することは、将来的には可能でしょうか？	研究者向けにスキーマのカスタマイズ可能なメタデータ機能は将来的な開発になります。GakuNin RDMとJAIRO Cloud連携の2024年度中の先行利用時点では、公的資金によるメタデータ共通項目に対応しています。2025年度中に、査読付論文著者最終稿に対する書誌情報とその根拠データに対するメタデータの付与が可能になります。
GakuNin RDM	16	(2)プロジェクトメタデータの編集・修正ができるようにしてほしい。	GakuNin RDMのメタデータ登録機能において、プロジェクトメタデータの編集・修正ができるようにする計画です。
GakuNin RDM	17	Gakunin RDMとJAIRO Cloud連携機能の一般公開時期が知りたいです。この機能ができるまでは図書館員による登録になりますが、この機能の公開後は研究者によるセルフアーカイブとなると、業務フローが大幅に変わってきますのでおおよその目途だけでも教えていただけると幸いです。	2024年度第4四半期でのGakuNin RDMとJAIRO Cloud連携の先行利用のフィードバックを受けて、機能修正・拡張を行った後に、2025年度下期でのご提供予定です。
GakuNin RDM	18	GakuNin RDMの導入方法とメリット&デメリットの詳細を教えてください。	GakuNin RDMの導入方法については以下ページをご参照ください。 <a href="https://support.rdm.nii.ac.jp/participate/">https://support.rdm.nii.ac.jp/participate/</a> また、GakuNin RDM導入のメリットは、教員と学生、あるいは機関を越えた共同研究のためのデータ共有が限られたユーザー間で簡易に実現できることです。デメリットはありませんが、利用者は非公開データを誤って共有しないよう注意するなどの注意が必要であることが考えられます。現在は利用料金は無料ですが、将来的に課金に移行する計画です。
GakuNin RDM	19	大学の規模ごとに、導入費用についてもう少し具体的にイメージできるような情報があるとたすかかと思えます。	時期は未定ですが、適切な時期にアナウンスの後、課金させていただく予定です。大学の規模別に受益者負担モデルをご提示できるように、今後、情報をお伝えして参ります。
GakuNin RDM	20	GakuNin RDMを使用するのに現状は費用がかからないとのことだが、ストレージの増加等によくゆくは費用が掛かるようになるのかなど知りたい。	時期は未定ですが、適切な時期にアナウンスの後、課金させていただく予定です。
GakuNin RDM	21	実証実験後のランニングコストについて	時期は未定ですが、適切な時期にアナウンスの後、課金させていただく予定です。
GakuNin RDM	22	JAIROcloud連携試行はぜひ枠を10機関の枠を拡大して実施してほしい。または、もし応募多数の場合は、GakuNinRDMの実利用状況を考慮された方がよいかもしれない。少なくともGakuNinRDM上で操作する、というだけでもハードルがある機関もまだ多いと思うので、連携機能を確認できるだけのGakuNinRDMを使いこなす能力があるか、も採用基準にしてはいいか。そうでなければ、連携機能の評価の前に、GakuNinRDMの利用支援だけで手を取られてしまうような気がする。本学では私以外に十分な利用スキルを持った方は限られるが、ぜひこの思考試験には参加してみたい。それにより包括的に利用できる研究データ管理基盤であることを学内でアピールしたいと思っている。	ご意見ありがとうございます。 GakuNin RDM自体の利用実績なども考慮して、JAIRO Cloud連携機能の先行利用機関の評価選定を実施させていただきます。
GakuNin RDM	23	「お試し」で導入してみて、試験的に操作しながら、本格導入が行えるのか、事務職員のアカウントで研究者として試験的に操作可能なのか、容量の最大数はどれだけのなのか、などをもっと説明していただけるとありがたいです。	機関の認証アカウントを持っている方なら事務職員の方でもGakuNin RDMの利用は可能です。試験的な操作環境はご提供できていないので、事務組織の課室等の単位で利用申請をいただき、試験的に利用いただくことは可能です。また、NII標準ストレージの場合、ユーザー1人当たりのデータ容量の初期値は100GBで、アップロード可能な1ファイル当たりの容量は5GBまでとしております。
GakuNin RDM	24	中小規模の大学での取り組みについて、より具体的な事例を伺いたい。	先行利用を通じて中小規模大学でのGakuNin RDMとJAIRO Cloudの取組の事例を形成し紹介できるように検討して参ります。
GakuNin RDM	25	学認RDMとJairo Cloud間の連携仕様についてサポートサイトや説明会等の資料等だけでは判然としない部分が多いため、もっと詳細な予定や仕様がわかる資料を公開してほしい。	GakuNin RDMとJAIRO Cloud連携の先行利用を通じて、詳細な予定や仕様がわかる情報を公開いたします。

GakuNin RDM	26	GakuNinRDMとJAIRO Cloudの連携について、研究者への周知をどのように行うのか。各大学に任せられるのでしょうか。	弊所側でも各種イベント等を通じて研究者コミュニティへの周知につとめますが、システムの運用と学内研究者への周知は、基本的に各機関にお任せしております。
GakuNin RDM	27	本学では研究者による活用にかかなりのハードルがあるのではと懸念している。研究者の活用例、グッドプラクティスがあれば聞いてみたい。	GakuNin RDMとJAIRO Cloud連携の先行利用を通じて、グッドプラクティスや活用事例を整理してご報告して参ります。
GakuNin RDM	28	もう少し具体的な挙動、操作手順など	現在開発中であるため、実際に公開されるサービスとは異なる可能性があります。JAIRO Cloud連携につきまして映像等のデモを準備し、弊所イベントでご説明することを検討いたします。
GakuNin RDM	29	動作およびメタデータのデモを稼働中の様子などとあわせて見せてほしい。	現在開発中であるため、実際に公開されるサービスとは異なる可能性があります。JAIRO Cloud連携につきまして映像等のデモを準備し、弊所イベントでご説明することを検討いたします。
GakuNin RDM	30	開発段階でも良いので連携の画面を確認したかった	現在開発中であるため、実際に公開されるサービスとは異なる可能性があります。JAIRO Cloud連携につきまして映像等のデモを準備し、弊所イベントでご説明することを検討いたします。
GakuNin RDM	31	今、どのような機能を開発しているのか、それがいつ頃提供可能か、今後検討されている機能などが知りたいので、ロードマップを提供してほしい。	GakuNin RDMの中長期の全体計画につきまして、開発ロードマップとして各種イベント等でご紹介していく事を、今後、検討させていただきます。
GakuNin RDM	32	(1)GakuNin RDMの利用申請後、管理者をJAIRO Cloudと分けたいと思ってもできないシステムになっているようなので、再考いただきたい。	GakuNin RDMの機関管理者（情報基盤センター等のシステム管理者の想定）およびプロジェクト管理者（研究者の想定）と、JAIRO Cloudの機関管理者（図書館員の想定）および研究者用のアカウントは、両システムでそれぞれ独立して設計されています。
GakuNin RDM	33	機関ストレージを複数持てる、ログインユーザに応じて表示される機関ストレージを変更できる機能が欲しい。	いただいたご意見を整理して、機能要件を整理した上で実装の可否の検討を進めて参ります。